

## 鉄鋼

**7,539億円** (前期比 +5.4%)



- **鋼材販売数量**：国内の自動車向けを中心に需要は堅調に推移したものの、加古川製鉄所の生産設備トラブルや自然災害の影響などから、前期比減
- **鋼材販売価格**：主原料価格の上昇などの影響を受け、前期を上回る
- **鋳鍛鋼品売上高**：製品構成の変化により、前期比減
- **チタン製品売上高**：航空機分野での拡販等により、前期比増
- **経常利益**：上工程集約による収益改善策が進捗するも、設備トラブルや自然災害による販売数量減少、物流費の増加などにより、前期比125億円減益の47億円

## 溶接

**839億円** (前期比 +4.2%)



- **溶接材料**：東アジアを中心とした造船向けなどの需要が低迷したものの、海外における自動車向け需要の増加などから、前期比増
- **溶接システム**：国内建築鉄骨向け需要が引き続き堅調に推移し、前期並
- **経常利益**：原材料のコストアップなどにより、前期比12億円減益の36億円

## アルミ・銅

**3,590億円** (前期比 +2.7%)



- **アルミ圧延品**：自動車向け需要が増加したものの、飲料用缶材向け需要の減少などから、前期比減
- **銅圧延品販売数量**：タイ生産拠点の設備トラブル解消による銅管の販売数量回復などから、前期比増
- **経常損益**：アルミ圧延品の販売数量減少や、エネルギーコスト上昇、品質不適切行為の影響などから、前期比133億円悪化の15億円の損失

## 機械

**1,714億円** (前期比 +6.3%)



- **受注高**：石油精製分野の圧縮機需要の回復基調や、アジア・中東における石油化学分野の需要の増加などから、前期比13.6%増の1,717億円
- **当期末受注残高**：1,566億円
- **経常利益**：既受注案件の採算性悪化などにより、前期比11億円減益の12億円

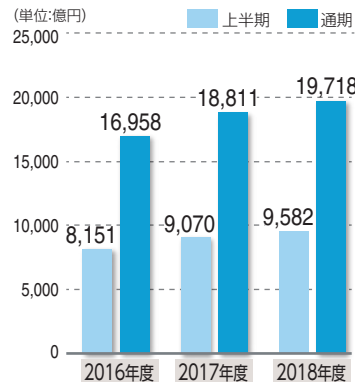
## 当期の概況

鋼材の販売数量は、国内における自動車向けを中心に需要は堅調に推移したものの、加古川製鉄所における生産設備の一過性のトラブルや自然災害の影響などから、前期を下回りました。アルミ圧延品の販売数量は、自動車向けの需要が増加した一方で、飲料用缶材向けの需要が減少したことなどから、前期を下回りました。銅圧延品の販売数量は、タイ生産拠点での設備トラブル解消による銅管の販売数量の回復などから、前期を上回りました。油圧ショベルの販売台数は、欧州、中国を中心に需要が堅調に推移したことから、前期を上回りました。

## 業績ハイライト (連結)

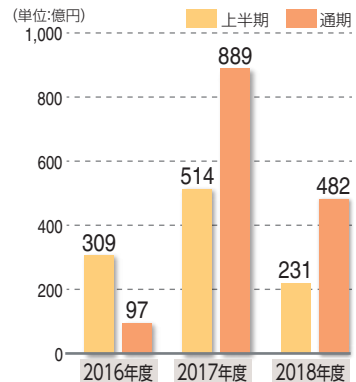
### 売上高

**19,718億円**  
(前期比 +4.8%)



### 営業利益

**482億円**  
(前期比 △45.7%)



## ■ 事業別売上高 (2018年度)

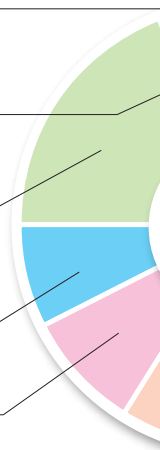
その他  
**420億円 (2%)**

電力  
**761億円 (4%)**

建設機械  
**3,860億円 (19%)**

エンジニアリング  
**1,517億円 (8%)**

機械  
**1,714億円 (8%)**



この結果、当期の売上高は、前期比907億円増収の1兆9,718億円となりましたが、設備トラブルによる販売数量の減少やエネルギーコストの上昇などにより、営業利益は前期比406億円減益の482億円、経常利益は前期比365億円減益の346億円となりました。特別損益は、固定資産の減損損失を計上した一方で、神鋼不動産(株)の株式の75%を譲渡したことに伴う利益を計上したことなどから143億円の利益となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比272億円減益の359億円となりました。

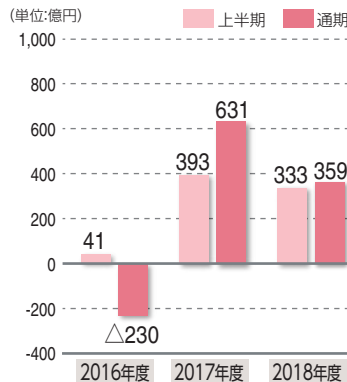
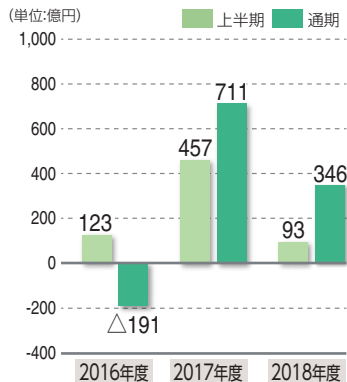
## 経常利益

**346 億円**  
(前期比 △51.3%)

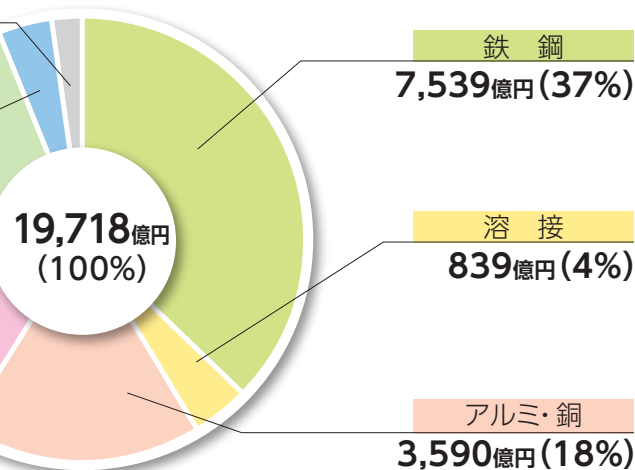


## 親会社株主に帰属する当期純利益

**359 億円**  
(前期比 △43.1%)



(注) 下記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額525億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額19,718億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。



## エンジニアリング **1,517 億円** (前期比 +23.5%)

- **受注高**：廃棄物処理関連事業での堅調な受注により、前期比2.8%増の1,226億円
- **当期末受注残高**：1,693億円
- **経常利益**：案件構成の変化などにより、前期比3億円減益の65億円



ジャカルタ都市高速鉄道南北線

## 建設機械 **3,860 億円** (前期比 +5.9%)

- **油圧ショベル販売台数**：欧州、中国を中心に需要が堅調に推移し、前期比増
- **クローラクレーン販売台数**：前期並  
[国内] 2018年7月に高砂製作所にて発生したクレーン倒壊事故の影響による出荷検査の遅れのため、前期比減  
[海外] 東南アジアなどにおける需要が堅調に推移
- **経常利益**：油圧ショベルの販売台数増加に加え、中国での油圧ショベル事業の滞留債権の回収進捗により引当金の一部を取り崩したことなどから、前期比35億円増益の255億円



建物解体機



クローラクレーン

## 電力 **761 億円** (前期比 +5.5%)

- **販売電力量**：定期検査日数の増加により、前期比減
- **電力単価**：発電用石炭価格の市況上昇の影響により、前期を上回る
- **経常損益**：神戸の新規発電プロジェクトの資金調達に伴う一時費用の発生などにより、前期比82億円悪化の3億円の損失



建設中の真岡発電所

## etc **420 億円** (前期比 △38.9%)

- **コベルコ科研**：[試験研究事業]受注減
- **その他**：連結子会社であった神鋼不動産(株)を、持分法適用関連会社に変更
- **その他の事業全体の経常利益**：前期比30億円減益の23億円



8k-TV技術にも対応した酸化半導体用ターゲット材